

在宅看護論

- 1 在宅看護論の考え方
- 2 在宅看護論目的・目標
- 3 在宅看護論の構成
- 4 在宅看護論学習内容

1 在宅看護論の考え方

わが国は、諸外国に例を見ない急速な少子高齢化が進展している。また、平均寿命やがん罹患後の生存年数の延伸など、社会情勢の変化や、医療の発展に伴い、医療・介護に対する人々のニーズも増大し、多様化・複雑化している。そこで「医療モデル」優先から、生活の質に焦点をあて、疾病や障がいがあっても、地域の住まいで、自立してその人らしく暮らすことを支える「生活モデル」に大きくシフトしてきている。国民のニーズに応え、健康な社会をつくるために、わが国は地域を基盤とした「地域包括ケアシステム」へとかじを切り、従来の病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型の体制への転換が図られている。そのため医療機関に入院して受療していた人々の多くが、住み慣れた地域において受療しつつ療養するようになり、健康の維持・増進、疾病の予防から始まり、疾病・障がいを抱えながらの療養生活の継続、そして人生を全うするまでを、地域で支える必要性が求められている。

在宅看護は、すべてのライフサイクルにおける疾病や障害の予防活動や福祉的な生活支援活動も内包し、広範囲にわたり提供される看護である。また在宅においては家族の生活の一部として療養や介護が行われることから家族を一単位としてとらえ支援していく必要がある。在宅療養者と家族の置かれている状況は多様化しているため、看護師には個のケアから地域システム全体を見渡し、多職種と連携協働し、ケアを展開する役割が期待されている。

そこで在宅看護論では、臨床から在宅への移行支援や継続看護を理解し地域で生活する人々の多様な価値観に気づきその人らしく生活することへの自己決定や生活の再構築の支援方法、地域包括ケアシステムの仕組みの中での看護師の役割を学ぶ科目とした。

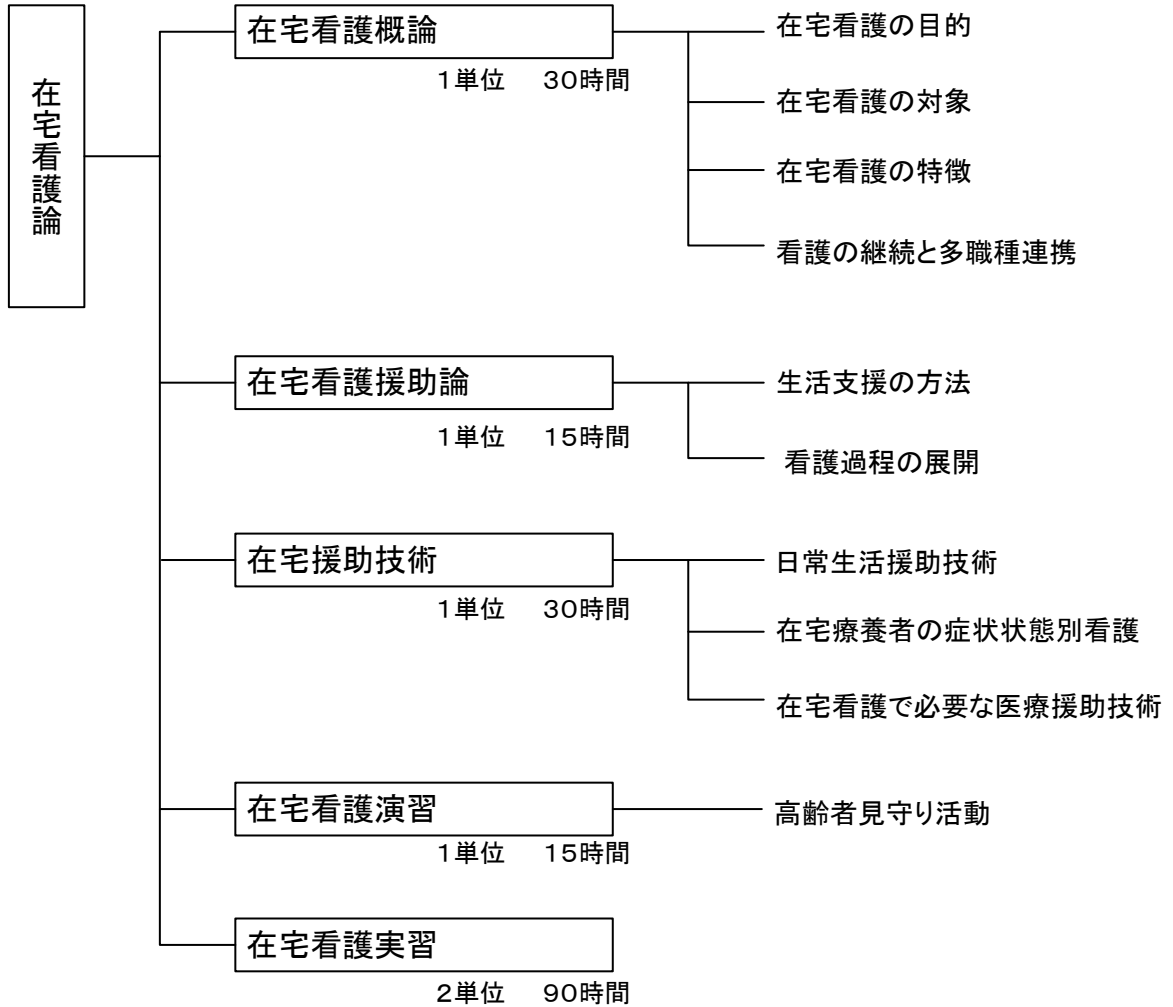
「在宅看護概論」では、在宅看護が必要とされる背景と看護活動の場を知り基本理念の理解を深め、住み慣れた地域で暮らすための地域包括ケアシステムの中での看護師の役割を見出す、「在宅看護援助論」では、様々な障がいを持ちながら生活する療養者（特に難病の療養者）とその家族への援助について看護過程を展開する。対象者の強みや予防できるリスクに着眼し、健康上の問題と課題を解決するとともに、療養者と家族の QOL を維持・向上させるための看護を考え、生活の場における援助を想定し実践、評価する。「在宅看護援助技術」では、在宅で療養者と家族への日常生活援助、医療処置と管理方法、訪問看護で遭遇することの多い状況下での看護について、学ぶ。「在宅看護演習」では、学校周辺の地域特性について理解し、高齢者の見守り活動を通して、住み慣れた地域でその人らしく生活するための支援について、ビジョンとゴールを定めプロジェクト学習形式で、地域住民への提案を考える。また地域包括支援センター・居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーションでの実習を通して在宅看護に携わるうえで必要な知識・技術態度を学ぶ科目と設定した。

2 在宅看護論目的・目標

目的 地域で生活する人とその家族を理解し、対象の健康問題に対し、在宅療養を支える看護を
実践する知識、技術、態度を習得する。

- 目標
- 1 在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。
 - 2 健康障害を持ちながら在宅療養している人々に対する在宅看護の意義が理解できる。
 - 3 基本的な看護技術を応用、創意、工夫し、在宅療養者に適した援助を実践する能力を身につける。
 - 4 在宅療養者及び家族のセルフケア能力を高めるための指導方法を理解できる。
 - 5 訪問看護サービス内容と訪問看護報酬費について訪問看護の主体性、専門性として理解できる
 - 6 保健・医療・福祉の連携において、地域のサービスシステムの活用について理解できる。
 - 7 在宅ケアにおけるコーディネーターとしての看護師の機能と役割が理解できる。
 - 8 在宅療養者とその家族への看護過程を理解できる。
 - 9 在宅で療養している人々とその家族の、生命と生活を尊重する態度を養い、看護の責任について考えることができる。

3 在宅看護論構成



4 在宅看護論学習内容

科目名	在宅看護概論	単位数	1 単位	30 時間
科目区分名	在宅看護論			
開講期	2 年次 前期			
教員名	前田 久恵			

授業概要：看護の対象である個人を家族、地域社会の一員として捉える視点を学ぶ。また変革期にある社会の動向や保健・医療・福祉の変化を踏まえたうえで地域で生活している在宅看護の対象、場、機能を理解する。更に保健・医療・福祉サービスの活用方法を理解し、他職種との連携について学ぶ。

- 到達目標：1 在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。
 2 健康障害を持ちながら在宅療養している人々に対する在宅看護の意義が理解できる。
 3 保健・医療・福祉の連携及び、地域のサービスシステムの活用について理解できる。
 4 在宅ケアにおけるコーディネーターとしての看護師の機能と役割が理解できる。
 5 在宅で療養している人々とその家族の、生命と生活を尊重する態度を養い、看護の責任について考えることができる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	在宅看護の背景	講義
2	在宅看護の基盤	講義
3	看護の対象としての家族	講義
4	在宅看護における倫理	講義
5	訪問看護の特徴	講義
6	訪問看護制度の理解	講義
7	地域包括ケアシステム	演習
8	療養の場の移行に伴う看護	講義
9	在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント	講義
10	ケアマネジメントにおける看護師の役割	演習
11	在宅看護におけるリスクマネジメント	講義
12	地域で療養生活を送る人の理解（当事者による実体験を聴講）	講義
13	障がい者を支える制度と社会資源	演習
14	地域診断：地域をアセスメントする	講義
15	単位認定試験・まとめ	

評価方法 筆記試験 90 点・レポート 10 点

テキスト ナーシンググラフィカ 在宅看護論(1)地域療養を支えるケア（メディカ出版）

参考書 国民衛生の動向

科目名 在宅看護援助論 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 在宅看護論
 開講期 2年次 前期
 教員名 前田 久恵

授業概要：難病についての理解を深め、様々な障害をもちながら在宅で療養生活を送る人への援助の方法と、難病対策の現状や社会資源の活用のされ方を学ぶ。さらに訪問看護における看護過程の特徴、また訪問看護における記録の意義、記録の際の留意点、一般的な記録について学ぶ。

到達目標：1 在宅療養者の医療援助技術および難病に対する援助を理解する。
 2 在宅療養者とその家族への看護のプロセスと方法を理解する。
 3 在宅で療養している人々とその家族の、生命と生活を尊重する態度を養い、看護の責任について考えることができる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	難病をもつ人の理解：自己決定支援	講義
2	難病の人を支える施策・支援	講義
3	訪問看護における看護過程の特徴、情報収集	演習
4	療養者と家族を一単位とした分析・解釈	講義
5	訪問看護過程の展開 療養者と家族の全体像の理解	講義
6	生活を重視した目標達成志向の課題抽出・計画立案	演習
7	生活の場を想定した援助の実施・評価	演習
8	記録物提出	

評価方法 レポート：10点・看護過程の記録物：90点

テキスト ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版）

参考書 NANDA-I 看護診断原書第11版 定義と分類 2018-2020

科目名 在宅看護援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 在宅看護論
 開講期 2 年次 前期
 教員名 前田 久恵

授業概要：在宅看護で必要とされる技術について、家庭という場を考慮した看護技術を工夫し、具体的な生活支援のあり方と訪問技術を学ぶ。また、在宅で酸素量法・経管栄養・中心静脈栄養・人工呼吸器の使用など医療依存度の高い処置について援助技術を学ぶ。

さらに在宅療養者と家族、および介護者の力量のアセスメント方法を理解する

到達目標：1 基本的な看護技術を応用、創意、工夫し、在宅療養者に適した援助を理解する。

2 医療依存度の高い利用者への援助技術が理解できる

3 在宅療養者とその家族への援助を理解する

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	訪問時の面接技術・訪問時のマナー	演習
2	在宅における食を整える技術	講義
3	在宅における排泄を整える技術	講義
4	在宅における清潔を整える技術	講義
5	在宅における移動の援助 在宅リハビリテーションの実際	講義
6	在宅における日常生活援助の実際	演習
7	胃瘻栄養法・在宅中心静脈栄養法の管理	講義
8	膀胱留置カテーテル・ストーマ管理	講義
9	褥瘡を有する療養者への支援	講義
10	在宅酸素・在宅人工呼吸器の管理	講義
11	COPD の療養者への支援	演習
12	在宅で療養する子どもと家族への支援	講義
13	在宅における看取りを迎える療養者と家族への支援 疼痛管理	講義
14	看取りを迎える家族への支援	講義
15	単位認定試験・まとめ	

評価方法 筆記試験 80 点・レポート 20 点

テキスト ナーシンググラフィカ 在宅看護論(1)地域療養を支えるケア (メディカ出版)

科目名 在宅看護演習 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 在宅看護論
 開講期 2年次 前期
 教員名 前田 久恵

授業概要：わが国は急速な高齢化の進展により、支援を必要とする独居の高齢者が増加傾向にあるが、自立した生活を継続するために十分な対策が講じられてはいない。看護の視点から社会資源のありかたを考えるためには、上記の対象者の実際を知ることが不可欠である。原市団地に居住し、独居生活をされ、承諾の得られた介護予防を必要とする高齢者に対し、訪問による見守り活動を行う。この活動を通して、対象者がもつ地域でのネットワークや社会資源の活用を知り、地域でその人らしい生活を営むために安全性、安楽性、自立のために支援の必要性を理解することをねらいとする。

- 到達目標：1 生活圏の地域の特性を理解する。
 2 対象者の生活状況を理解し、強みや課題について考えることができる。
 3 対象者を支える団地の自治会や民生委員、地域包括支援センターとの関係を知り、地域包括ケアシステムについて理解することができる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	地区踏査（高齢者訪問をしている地域を知る）	演習
2	見守り訪問対象者の強みと課題を抽出する	講義
3	プロジェクト学習：住み慣れた地域でその人らしく生活するための提案	講義
4	テーマに合わせた情報収集	演習
5	強みと課題を踏まえた提案の検討	講義
6	具体的な提案書の作成	講義
7	発表会	演習
8	リフレクション	

評価方法 見守り訪問の記録物・成果物・成長エントリーシート

在宅看護論実習

1) 実習目的

- (1) 地域における在宅ケアシステムを知り、地域で生活する在宅看護の対象、及びその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を養う。
- (2) 地域の特性や健康問題を知り、地域包括ケアシステムの中で、その人なりの、健康の保持増進と質の高い生活がおくるために多様な支援の必要性が理解できる。

2) 実習目標

- (1) 在宅で、ケアを必要とする対象及び家族に対する看護過程を展開し、在宅看護の役割・機能について理解する。
- (2) 在宅看護の現状を知り、継続看護の必要性を理解する。
- (3) 生活していく上での課題解決のために必要な、地域における社会資源の活用方法や保健・医療・福祉の連携と調整の必要性を理解する。
- (4) 地域包括ケアシステムの中で多職種と連携、協働する上で、看護専門職者の果たす役割を理解する。
- (5) 在宅看護を行うための基本的態度を身につける。